3-5. 福原北部地区

１．地区の概要

（１）位置・人口等

■位置

福原北部地区は益城町の南東部に位置し、町の中心部に近く、北側は平田地区に、東側は下陳地区に、西側は木山・赤井両地区に接しています。

集落は主に御船町につながる県道 57 号線の西側に広がっており、この県道及びこれに交差する町道が住民の移動には欠かせない交通路となっています。

自然環境をみても、北側には木山川、集落内にはホタルが舞う畑中川が流れ、西側の台地上は耕作地（田）となっており、水と緑に囲まれた集落と言えます。

図　福原北部地区

■人口等

平成 29 年 3 月末の住民基本台帳をみると、福原北部地区の人口は 234 世帯・722 人となっています。

人口の推移をみると平成 26 年度から平成 27 年度にかけて地区全体で約 230 人の人口増加となっていますが、これは平成 26 年に 2 つの分譲地が完成したことで、畑中地区において 2 倍以上の人口増となっていることによります。

震災後にあたる平成 28 年から平成 29 年にかけての人口推移をみると、地区全体で 25 人減（平成 28 年度の人口を 1 とした場合、0.03 の減少）となっています。地区ごとの人口の流出数をみると、田中地区、畑中地区、谷川地区の順に多くなっています。特に被害の大きかった田中地区においては、約 15 人の人口減となっています。

震災前から人口減少が始まっていた谷川地区においては、人口減が更に進んでおり、人口増が続いていた田中地区・畑中地区においても、震災後の人口減少が起こっている状況です。

表　福原北部地区毎の人口推移

	平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口
田中	86	246	89	251	90	262	86	249
畑中	67	190	125	404	129	427	126	420
谷川	22	53	24	63	22	58	22	53
合計	175	489	238	718	241	747	234	722

前年比	平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口
田中	―	―	1.03	1.02	1.01	1.04	0.96	0.95
畑中	―	―	1.87	2.13	1.03	1.06	0.98	0.98
谷川	―	―	1.09	1.19	0.92	0.92	1.00	0.91
合計	―	―	1.36	1.47	1.01	1.04	0.97	0.97

平成 26 年度を 1 とする	平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口
田中	1.00	1.00	1.03	1.02	1.05	1.07	1.00	1.01
畑中	1.00	1.00	1.87	2.13	1.93	2.25	1.88	2.21
谷川	1.00	1.00	1.09	1.19	1.00	1.09	1.00	1.00
合計	1.00	1.00	1.36	1.47	1.38	1.53	1.34	1.48

（２）被害状況

福原地区全体での熊本地震後１回目の家屋の被害認定状況をみると、「全壊又は大規模半壊」は住家の約 26%で隣接する平田地区より割合としては低くなっています。これは、分譲地に建つ新築住家を含めた住家への損壊が少なかったことで割合が低くなっていると考えられます。現在、全壊・大規模半壊の住家は解体され、建物の新築も進んでいます。

住家以外の被災状況として、田中橋や通学路の損壊、畑中天満宮や観音様などの地域資源の損壊等がありました。

表　福田校区内大字別被災状況（住家）

	住家					
	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	無被害	計
大字福原	95	34	104	271	7	511
大字平田	92	17	41	105	7	262

	住家					
	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	無被害	計
大字福原	19%	7%	20%	**53%**	1%	100%
大字平田	35%	6%	16%	40%	3%	100%

（３）地区の課題

・分譲地完成による人口増加が、震災後、減少に転じている
・公共交通の利便性が低い
・通学等の歩行者には危険性が高い
・地区の主要な道路は４ｍ以上となっており、一部６ｍ以上に整備されているところがあるが、生活道路は４ｍ未満の狭あいな道路も多く残っている。

２．地区の基本方針

福原北部地区は朝来山、船野山、飯田山といった山々を望み、ホタルが舞う畑中川など水と緑に恵まれた地区で、西側の台地に美しく沈む夕日は、地域に暮らす人びとの心を支える風景となっています。

地域内は団結力があり、寺社やそれらにまつわる地域行事が昔から受け継がれてきました。最近では、地区内にできた 2 つの分譲地により、子どもや若い世代も多くなってきたことから、新旧住民が協力し、地域文化の伝承なども含めたまちづくりに取り組んでいくことが期待されています。

児童・生徒が多い本地区においては、熊本地震により被災した建物や道路等の修復が現在も続けられているなかで、第五保育所の再建場所周辺や、現在、小中学校の通学路のう回路として使用されている県道の安全性向上が急務となっています。

今後、ハード・ソフトの両面から災害に備えたまちづくりに取り組みつつ、古くから受け継がれる祭りや世代を超えた交流の機会を大切に未来につなげ、地域の魅力的な資源を再認識しながら、地域住民の笑顔あふれるまちづくりを目指します。

【まちづくりの目標・まちの将来像】

“夕日が生み出す　地域の力　～Let the smile carry on～”

３．避難路・避難地の計画

＜避難路＞

避難路については、地区の中央を東西に通る町道下陳畑中線から避難地である木山中学校・益城中央小学校に続く町道田中線において、避難しやすく、かつ緊急車両が通行しやすくなるよう拡幅整備します。

＜避難地＞

避難地については、地区の住民が集まりやすい旧第 5 保育所跡地に、町有地の有効活用も含め災害時の一時避難場所を整備します。

表　避難路・避難地の整備の概要

路線名等	整備内容		整備の内訳			概算事業費
			延長	幅員	面積	
		拡幅等	（m）	（m）	（㎡）	（千円）
町道田中線	地区公共施設（避難路）	拡幅	185.0	6.0	370	39,300
一時避難場所	地区公共施設（避難地）	新設			2,422.0	171,400

福原北部地区【６ｍ】

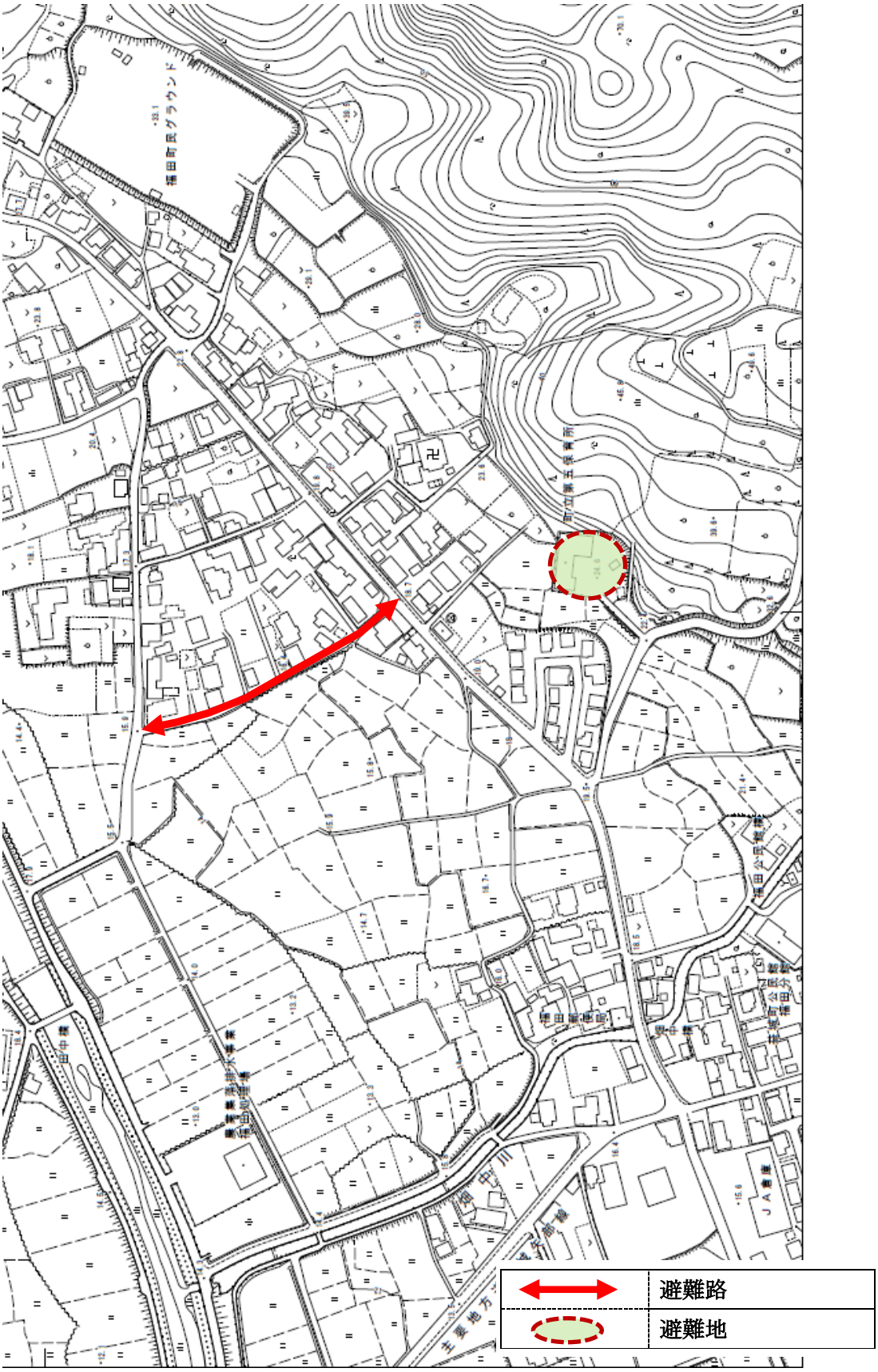

図　避難路・避難地計画図